

成果の説明書

(氏名) 藤田和史	(学部) 地域政策学部
1 重要事項 ○教育上の成果 令和7年度は、初年次ゼミ(3クラス)、グループ研究Ⅱ(受講者0により不開講)、産業立地論(受講者48名)、産業政策論(受講者126名)、中小企業論(受講者8名)および基礎演習を担当した。講義科目においては、Web Classを使用して講義期間中の資料配付、復習を意図した各回の小テスト、そして單元ごとの復習課題を課し、講義内容の理解に努めた。 また、基礎演習では施設立地コンフリクトに関する参考文献を輪読した上で、グループワークによる10000:1の地形図を用いた図上演習でのNIMBY施設の立地ゲームを実施した。現実の施設建設におけるイニシャルコスト・ランニングコストの調査や、立地地域の実態を知るために各種の統計データの探索をすると同時に、建設者と住民の両方の立場から検討を進めることに重点を置いた。それにより、施設立地がいかなる調整の下で薄氷を踏むがごとく進められているのか、学生たちは理解することができたようである。 ○研究上の成果 1) 著書・論文等 藤田和史 2026. 和歌山県海南市の家庭用品産地にみる変化. 地理月報 579: 2-5. 2) 学会報告等 藤田和史 2025. 地域の産業・中小企業をみつめて. 本学地域政策学会オンライン研究会(2025年6月26日). 3) 競争的外部資金等 ・「サプライチェーンの強靱性と産業地域のレジリエンスに関する地理学的研究」, 2024~27年度 科学研究費補助金(基盤研究(B), 課題番号: 23K25430) 交付金額 3,250千円, 研究分担者(継続) ・「日本における企業の社会性の価値付けと国際的認証概念の適用と普及を目指して」, 2024~26年度 科学研究費補助金(基盤研究(C), 課題番号: 24K05085) 交付金額 300千円, 研究分担者(継続) ○職務上の成果 1) 学外関係 (1) 学会等 ・経済地理学会 編集委員会 幹事(2018年6月~現在) ・日本地理学会 e-journal Geo 編集委員会 委員(2022年4月~2026年3月) ・日本地理学会 学会賞選考委員会 委員(2025年9月~現在) (2) 自治体等 ・大阪府中小企業家同友会 産業構造研究会 会員(2012年7月~現在) ・岸和田市空家等対策協議会 委員(2021年6月~2025年6月) ・南紀熊野ジオパーク推進協議会学術専門委員会 委員(2022年4月~現在)	

2) 学内関係 ・教務委員会委員として月例委員会に出席し，学部教務に関する業務に参画した． ・広報から依頼のあった「たかけい学報」の初任者紹介記事を作成した． ・ラジオ高崎「ラジオゼミナール」に，「研究履歴とこれから研究したいテーマについて」（2026 年 2 月 20 日放送分），そして「地域の力を活かす地域産業政策を考える」（2026 年 2 月 27 日放送分）と題して出演した．
2 その他の事項 特になし
3 次年度以降の計画・抱負 学生教育においては，3 年次生の演習が開講されるので，国内他地域における地域産業と地域の社会経済の関わりについて学習するためのゼミ合宿を福岡県内で実施する予定である．そこで得た知見をふまえ，本学および県内における地域産業のあり様を相対化して理解できるように指導する予定である．また，今年度は着任年次であり，新たな開講科目もあったが，次年度はその内容を改訂しつつ提供をする予定である． 研究面においては，科研の分担終年次になるために，調査の継続とそれを踏まえたとりまとめを進める予定である．また，その内容を盛りこんだ自身の単著の執筆を準備する．それと並行して，経済地理学の成果と課題の執筆等を進める．なお，今年度は「関東地方中央部のものづくり産業における外国人材の社会的包摂（仮）」というテーマで，科学研究費補助金のプロジェクトを検討する．